

平成28年度事業計画書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

特定非営利活動法人がんサポートコミュニティ

1 事業実施の方針

- (1) がん患者にとって最適な治療を受けることは最大の関心事ではあるが、同時に治療の苦しみや再発の不安、死の恐怖に向き合うには家族や友人の支え以外にも、同じ病と向き合う仲間たちとの交流を通じて希望を得て、回復の可能性を高めていくことも意義深い。日本は世界トップレベルの医療システムを構築しており、とくに国民皆保険制度とフリーアクセスは世界に例を見ないシステムである。また今日の情報社会において患者は様々な情報に基づき自らが望む医療を望む医療機関で受けることができる。しかし、心理社会的サポートについては今日の情報社会といえども情報に乏しく、またアクセスするまでのハードルが未だ高い。患者が心理社会的サポートを望めばそうしたサポートにアクセスできるようにすべく医療機関と情報交換を図りながら有機的な連携を目指し、時代の要請に応え得る心理社会的支援活動事業の充実を図る。
- (2) 心のケアはがん患者だけではなく、家族にも同じく必要である。家族は患者をケアする役割に没頭して、自分自身の心のケアを怠りがちである。また患者の精神的な支えになるために自分の辛い気持ちを心の奥底にしまい込んで、気丈に振る舞うことが多い。がんは患者本人だけではなく、家族にとっても大きな衝撃であり、心理面、社会面、その他日常生活に大きな影響を与える。そのことから家族は「第二の患者」とも言われている。がん患者の家族に対する心理社会的サポートの充実を図る事業に注力する。
- (3) ピンクリボン運動は、1980年代、アメリカの乳がんで亡くなられた患者の家族が“このような悲劇が繰り返されないように”との願いを込めて作ったリボンからスタートした乳がんの啓発運動である。今日では広く社会で認知された運動にまで発展している。しかし2013年にがんで死亡した人は男性216,975例、女性147,897例、2011年に新たに診断されたがん（罹患全国推計値）は男性496,304例、女性355,233例であり、明らかに男性患者が多い。また心理社会的支援活動事業についても肺がん、前立腺がんにおいて男性患者の参加者が増加している。こうした状況を踏まえてピンクリボン運動同様に男性に着目した心のケアはもちろんのこと、啓発活動も含めた新たな事業として試みる。
- (4) 近年、おひとりさまが増えている。若者の一人暮らしだけでなく配偶者と死別した高齢者や未婚の中老年男性の一人暮らしも急増している。結婚をして同居家族がいることを“標準”としてきた日本社会において単身世帯の急増は衝撃である。しかしこれは個人の生き方や家族のあり方が多様化していることの象徴でもある。一方これまで世帯内の助け合いが生活保障の大きな役割を果たしてきたので、単身世帯の抱えるリスクに対して社会としての対応を考えていく必要がある。米国本部 Cancer Support Community が地域コミュニティに根ざした心理社会的支援活動事業の取り組みのなかで、“拡大家族”として位置づけてきたように、わが国におけるおひとりさま世帯のがん患者同士を支えあうしくみとして捉え、地域コミュニティでの新たな役割として取り組む。
- (5) がんは以前のような「治らない病気」というイメージはなくなってきたが、「治りづらい病気」という感じは否めないというのが現状である。しかし、ここ20年余の医療の進歩で急速に治癒率が改善しているがんもある。一方で、がんが年齢の5乗に比例して増加することからも一つのがんを克服しても新たながんに備えなければならない時代になったともいえる。がんサバイバーに対して、新たながんに備えてがん検診を受けることを勧奨することを目的とした普及啓発活動を新たな事業として試みる。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)	
心理社会的支援活動事業	サポート事業	患者及び家族に対するサポートグループ運営	随時	事務所	9	患者及び家族 1,400人	13,000
	医療相談事業	患者及び家族に対し複数の医師による医療相談実施	随時	事務所	3	患者及び家族 50人	

技術的支援 活動事業	リハビリテーション事業	患者及び家族に対する ヨーガの指導	随時	事務所	1	患者及び家族 150人	2,600
		患者及び家族に対する アロマセラピーの 指導	随時	事務所	1	患者及び家族 50人	
		患者及び家族に対する 自律訓練法の指導	随時	事務所	1	患者及び家族 50人	
		患者及び家族に対する コーラスの指導	随時	麻布グレイスコ ^ス パ ^ル 教会	3	患者及び家族 550人	
		患者及び家族に対する コーラージュの指導	随時	事務所	1	患者及び家族 10人	
普及啓発 活動事業	普及啓発事業	ペイシェントアクテ ィブフォーラムの開 催	平成28年9月24日	よみうり 大手町ホール	15	患者及び家族、 市民 400人	10,713
		患者支援プログラム を学ぶセミナーの開 催（大阪）	平成28年4月23日	TSURUYAホール	3	看護師、社会福祉 士及び臨床心理士 40人	
		がんを学ぶセミナー の開催	平成28年7月2日	事務所	3	患者及び家族、 市民 25人	
		大阪マラソンEXPOに ブース出展	平成28年10月27日 ～ 平成28年10月28日	インテックス大阪	12	患者及び家族、 市民 50,000人	
		説明会	随時	事務所	4	患者及び家族 60人	
		機関誌「がんサポ通 信」の発行	年2回	事務所	10	患者及び家族、 市民 4,000人	
		活動報告会	平成28年6月22日	事務所	7	賛助会員 20人	
		関係図書頒布	随時	事務所	2	患者及び家族 250人	
	受託事業	港区 在宅緩和ケア 家族交流会の企画運 営	平成28年7月 予定 平成28年8月 予定 平成28年9月 予定 平成28年10月 予定	みなと保健所	2	患者及び家族 50人	
		港区 区民講演会として 講演会運営	平成29年2月25日	高輪区民 センター	2	患者及び家族 100人	
港区 港区対面相談として 対応		毎週水曜日	みなと保健所	2	患者及び家族 50人		

	教育研修事業	看護師、社会福祉士及び臨床心理士を対象とした、患者の心理社会的支援の実践指導	平成28年11月1日 ～ 平成29年3月31日	事務所	9	看護師、社会福祉士及び臨床心理士 10人	
	研修旅行事業	患者及び家族に対する研修旅行実施	平成28年6月11日 ～ 平成28年6月12日	三井物産人材開発センター	5	患者及び家族 30人	
調査研究及び 情報交換事業	患者交流事業	クリスマスパーティー開催	平成28年12月予定	未定	8	患者及び家族 50人	2,000
	その他	患者及び家族に対し家族の絆を深めることを目的としたイベントを開催	平成28年8月7日	電通四季劇場	8	がん患者及び家族 500人	

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	支出額 (千円)
該当なし					